

平成 26 年度 環境改善に関する調査研究に係る外部評価について

課題：局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究

局地的な大気汚染対策に係る調査研究の体系的レビューとその成果を活用した局地的対策パッケージに関する調査研究

一般社団法人環境情報科学センター

- ・昭和 63 年度から平成 25 年度までに実施された調査研究は、「局地的な大気汚染地域の大気汚染の改善に関する調査研究」を主目的として実施されてきた。
- ・それぞれの課題についても、その時期に適切なテーマについて実施されてきたものと判断されるが、全体が「総量削減基本方針」（平成 23 年 3 月）に対応するように実施されたものではない。しかし、「基本方針」のなかの「局地汚染対策の推進」との関連をはじめとして、多くの課題は「基本方針」を先取りした内容ともいえる。
- ・これまでの成果を基に、成果の活用・普及状況を整理し、局地汚染対策パッケージの提案や、平成 32 年度に向けての高濃度汚染地区対策の一助となることに期待したい。
- ・機構の研究についての分析はある程度整理できているように思う。しかし、大気汚染問題とその認識の変化、他機関や学会等での研究動向、政府の政策の進展などの文脈の中でどのような貢献をしてきたかを評価することが重要である。この意味でこの整理結果の解釈をふまえて、内外の最新の研究成果をふまえた対策パッケージの提案を期待したい。
- ・機構が実施した調査研究がどのような社会的環境の下で行われたのかについて配慮が必要と考える。対策のメニューを機構が実施した調査研究内容からだけで作成するのは不十分と考える。
- ・対象としている諸対策の有効性についていかに中立的に整理、評価するかがポイントである。本機構が取り扱った対策以外の大気改善効果も考慮した上で、客観的に整理する必要がある。特に、局地汚染対策に関しては、当時にそのような対策が必要とされた背景も踏まえ、またその後それらの対策がどのように利用されたかを追跡して評価すべきである。
- ・本年度は、これまでに、どのような課題を実施して来たのかが整理出来たが、最終年度には、
 - (1) 課題実施時の時代背景や、実施の意義を整理して欲しい。
 - (2) 実施課題の沿道大気汚染対策への貢献度の評価を行って欲しい。
 - (3) 沿道大気汚染対策に資する研究課題の現状分析を行って欲しい。
 - (4) 更に、今後、取り組むべき研究テーマを整理し、本事業の役割分担を検討し、今後、取り組むべき課題に関する基本情報の提供を期待したい。
- ・事業の狙いへの理解が浅く、作業方針に反映されていないきらいがある。今回の成果報告は、多数に上る調査研究の単なる表化と分類にとどまっているとあってよい。しかも、その分類も非常に表層的なものとなっていて、事業の時代的な背景の考察、費用便益の分析・検討、実用化に向けての技術的な障壁の構造の解明など、総合的なパッケージの提示に向けた準備はまったくできていない。次年度の仕上げに向けて、格段の努力をお願いしたい。特に、書面上のレビューでなく、関係者へのヒアリング、インタビューを通じて肝要な情報の収集に努めてほしい。